

令和元年6月21日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02894

研究課題名（和文）日本人学習者の語彙・文法の受容・産出能力におけるCEFR基準特性の妥当性の研究

研究課題名（英文）A validation study of CEFR critical features of Japanese English learners' receptive and productive vocabulary and grammar knowledge

研究代表者

宇佐美 裕子 (Usami, Hiroko)

東海大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：20734825

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本人大学生英語学習者の語彙・文法における各CEFRレベルの基準特性の妥当性を受容・産出能力の面から検証した。受容能力では、大学入試問題の過去問題から収集したA1からC2レベルの「CEFR語彙・文法テスト」を分析し、産出能力では、A2からB2レベルのスピーキングとライティングを収集したCEFR Learner Corpusを構築し分析した。受容能力と比較して、特にスピーキングにおける産出能力は低く、スピーキングとライティングにおける語彙と文法の使用に関するさらなる調査が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、CEFRの観点から日本人大学生英語学習者の語彙・文法の受容・産出能力を比較した。結果、産出能力、特にスピーキングのCEFRレベルは低く、ライティングとスピーキング共に学習者が実際に使用している語彙・文法のCEFRレベルは高くなかったことが判明した。この研究成果は、産出能力を重視した大学入試改革を目前に、大学英語教育における入学前教育、シラバス改訂、テスト、教材作成へも貢献できるものであると考える。

研究成果の概要（英文）：This project investigated CEFR critical features of Japanese English learners' receptive and productive vocabulary and grammar knowledge. While in their receptive knowledge, CEFR Vocabulary and Grammar Test, which contains A1 to C2 vocabulary and grammar questions taken from Japanese university entrance exams, was analyzed, in their productive knowledge, CEFR Learner Corpus, which contains A2 to B2 level speaking and writing, was analyzed and examined. The results demonstrated that their productive knowledge, especially their speaking level was low, compared to their receptive knowledge. Therefore, further research on their use of vocabulary and grammar in their speaking and writing will be required.

研究分野：英語コーパス言語学、言語テスト、CEFR

キーワード：CEFR 文法 語彙 学習者コーパス 言語テスト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) コーパス言語学の言語テスト分野への応用

コーパスの言語テストへの応用はまだ歴史が浅く、今後期待される研究である。

(2) 各 CEFR レベルにおける語彙・文法の基準特性の妥当性

コーパスはこれまで、言語テスト分野において、テストの内容妥当性の研究、問題作成、自動採点等に活用されている。

最近の研究として、English Profile Project (EPP)の一環として、各 CEFR レベルの学習者の語彙の基準特性を抽出し、単語の意味ごとに English Vocabulary Profile (EVP)として発表している。

しかし、EPP で提示された語彙・文法の基準特性が実際に日本人英語学習者にも有効であるかの妥当性はまだ十分に研究されていない。

(3) 受容能力重視の現在の大学入試問題から産出能力重視の TEAP へ

現在の受容能力重視の大学入試問題は、2020 年から産出能力重視の問題へと大きく変化し、現在新しい大学入試案の一つとして speaking と writing が含まれた TEAP がいくつかの大学で利用されている。

語彙・文法の主に受容能力の向上を目的に学習してきた日本人大学生英語学習者が、speaking と writing の授業を受ける過程で、語彙・文法の受容能力から産出能力をどれだけ向上できるかを日本の英語教育の環境下で解明することは、大学英語教育だけでなく、中学・高校での英語教育を含めた、日本の英語教育及び大学入試改革にも貢献できると考える。

2. 研究の目的

(1) 「大学入試問題コーパス」の語彙・文法 4 択問題の CEFR レベルの検証

「大学入試問題コーパス」(『全国大学入試問題正解英語(私立大編)』(旺文社)の2000年から2016年に掲載された語彙・文法 4 択問題を収集)に収集されている語彙・文法 4 択問題約 13,000 題に CEFR レベルをタグ付けし、大学入試問題の語彙・文法問題の各 CEFR レベルの出題数、及び大学の難易度による各 CEFR レベルの出題数を解明する。

(2) 英語テスト作成と語彙・文法の受容能力の検証

CEFR レベルをタグ付けした大学入試問題の語彙・文法 4 択問題から、CEFR レベル A1 から B2 の問題を 10 問ずつ、合計各 40 問の「CEFR 語彙テスト」と「CEFR 文法テスト」を作成し、日本人大学生英語学習者の回答を分析し、語彙・文法の受容能力における CEFR レベルを解明する。

(3) 「TEAP 学習者コーパス」構築と語彙・文法の産出能力の検証

日本人大学生英語学習者による TEAP の speaking と writing の回答を収集し、「TEAP 学習者コーパス」を構築し、各語彙・文法に CEFR レベルをタグ付けする。コーパス分析ソフト WordSmith Tools を使用して、語彙リスト・n-gram を取得し、学習者の speaking, writing、及び各タスクにおけるそれぞれの語彙・文法の産出能力における CEFR レベルを解明する。

(4) 語彙・文法の受容・産出能力の差の検証と提言

日本人大学生英語学習者の語彙・文法の受容・産出能力の CEFR レベル、speaking と writing の CEFR レベルの差、speaking と writing の各タスクによる CEFR レベルの差を解明し、申請者の所属大学における入学前教育、シラバス改訂、テスト・教材作成への提案を明示する。

3. 研究の方法

(1) 「大学入試問題コーパス」整備

『全国大学入試問題正解英語(私立大編)』(旺文社)の2000年から2016年に掲載の約 13,000 題の各語彙・文法 4 択問題に CEFR レベルをタグ付けし、「大学入試問題コーパス」を整備する。

語彙問題においては、解答と選択肢の語彙に EVP に示されている CEFR レベルをタグ付けする。

文法問題においては、解答の文法項目に CEFR レベルをタグ付けする。

大学入試問題の語彙・文法 4 択問題における各 CEFR レベルの出題数、及び大学の難易度による各 CEFR レベルの出題数を明らかにする。

(2) 英語テスト作成

CEFR レベルをタグ付けした「大学入試問題コーパス」収集の語彙・文法 4 択問題の中から、CEFR レベル A1 から B2 の高頻出の問題を 10 題ずつ選定し、合計各 40 問の「CEFR 語彙テスト」と「CEFR 文法テスト」を作成する。

統計ソフト SPSS とテスト分析ソフト Winsteps を使用して、申請者の所属大学の日本人大学生(A2 から B1 レベル)約 400 人の「CEFR 語彙テスト」「CEFR 文法テスト」の回答を分析し、

各問題の難易度、弁別度を取得する。

CEFR レベル A1 から B2 各レベル 10 問中の各学生の正答率を取得し、各学生の語彙・文法の受容能力における CEFR レベルを明らかにする。

(3) 「TEAP 学習者コーパス構築」

申請者の所属大学の推定 A2 から B1 レベルの日本人大学生約 400 人による TEAP の speaking と writing の回答を収集し、学習者の属性（英語資格試験のスコア、海外留学経験等）を含め「TEAP 学習者コーパス」を構築する。

speaking では、教員による学生へのインタビュー、ロールプレー、スピーチ、story-telling、プレゼンテーションなどのタスク（合計約 6 分）の回答を収集する。

writing では、指定した条件（辞書を使用せずに 60 分でパソコンを使用）の下、指定したトピックで書いたエッセイを 1 学生につき 2～4 種類収集する。

使用された語彙・文法項目の CEFR レベルをタグ付けし、コーパス分析ソフト WordSmith Tools で分析し、各学生の speaking と writing の産出能力における CEFR レベルを検証する。

WordSmith Tools を使用して各 CEFR レベルの学習者による語彙リスト、n-gram を取得して、具体的にどのような語彙・文法、フレーズが使用されているかを検証する。

4. 研究成果

(1) Usami, H. (2019). Japanese English Learners' CEFR Receptive and Productive Vocabulary Knowledge in Their CEFR B1 Speaking Test. *The Bulletin of International Education Center*. 第 39 巻, 23-35.

(要旨)

これまで語彙能力は、受容能力と産出能力を含め様々な観点から論じられてきた。Capel (2015) は英語学習者の語彙の受容能力と産出能力には大きな差はないと論じている。しかし、Usami (2018) では、日本人英語学習者のライティングにおける語彙の受容能力と産出能力に差があったことが論じられており、日本人英語学習者の語彙の受容能力と産出能力を比較することは価値があると考えられる。従って、本研究では、日本人英語学習者のスピーキングにおける語彙の受容能力と産出能力を比較、検証した。結果、日本人英語学習者の語彙の受容能力は比較的高かったが、ペアの会話で日本人英語学習者が実際に使用している語彙の CEFR レベルはほとんどが A1 レベルで、スピーキングにおける語彙の産出能力も低かったことが判明された。

(2) Usami, H. (2018). CEFR Receptive Listening, Reading, Vocabulary, and Grammar Knowledge of Japanese Learners of English. *The Report of Foreign Language Center*.

(要旨)

大学 1、2 年生の英語必修科目 Listening & Speaking と Reading & Writing のシラバスには、到達目標の CEFR レベルが各能力別に明記されている。しかし、この CEFR レベルは各コースの両方のスキルをカバーしており、学生のそれぞれのスキルの実際の CEFR レベルは調査されていない。本研究では、大学 1、2 年生の実際の CEFR のリスニングとリーディングの受容能力を調査し、語彙と文法の受容能力を比較した。

結果、advanced の学生にとってリーディングと比較すると、B1 レベルのリスニングは難しく、また文法の A2 と B1 の平均点に大差が見られた。また、文法能力を除いて、intermediate と basic の学生の平均点に大差はなかった。A2 レベルの語彙においては、intermediate と basic の学生よりも advanced と intermediate の学生の平均点に大差があった。相関に関しては、語彙と文法が一番高く、リスニングとリーディングはそれほど高くなかった。リーディングと語彙・文法はそれほど高くなく、リスニングと語彙・文法が一番低かった。

(3) Usami, H. (2018). CEFR Receptive and Productive Vocabulary knowledge of Japanese English Learners.

(要旨)

語彙はこれまで受容・産出能力の観点から分析されているが、CEFR の文脈においては十分に研究されていない。また、Capel (2015) では、学習者の語彙の受容・産出能力の違いはないと主張されているが、日本の英語教育を考慮すると、それは疑わしい。従って、本研究では、約 240 名の日本人英語学習者の語彙の受容・産出能力を CEFR の文脈において比較した。受容能力においては、各 CEFR レベル 10 問からなる、合計 60 問の、大学入試問題から選出した 4 択問題で構成された CEFR Vocabulary Test を解かせ、統計分析をして調査した。一方、産出能力においては、エッセイにおける語彙の CEFR レベルを分析して調査した。結果、学習者の語彙の受容能力は比較的高く、C2 レベルの語彙の 4 択問題でも半分の正答率であった。一方、産出能力は低く、B2 レベルに到達する学習者は少数であった。

(4) (2018). A Validation Study of the CEFR Vocabulary Levels of Japanese English Learners in the English Vocabulary Profile. *The Bulletin of International Education Center*.

(要旨)

English Vocabulary Profile (EVP)に提示された CEFR レベルは、学習者の書き言葉、つまり産出能力を元に付与されているが、受容能力における EVP の妥当性の研究は十分に行われていない。従って、本研究では日本の大学入試問題の語彙 4 択問題の学習者の解答を分析し、日本人英語学習者の受容能力の観点から EVP と CEFR-J Word List に付与された CEFR レベルを検証した。結果、日本人英語学習者の受容能力は A1, A2 と推定され、CEFR の受容能力と産出能力に違いがある語彙と、EVP と CEFR-J Word List に付与された CEFR レベルが異なる語彙もあることが判明した。

(5) Usami, H. (2017). CEFR Writing Levels of Japanese Learners of English - Examining the Effects of the Web-based Writing Tool, Cambridge English Write & Improve. *The Report of Foreign Language Center*.

(要旨)

CEFR に基づき、各能力と学年ごとの Reading & Writing のターゲットレベルはシラバスに記載されているが、彼らの実際のライティングにおける CEFR レベルは十分に調査されていない。さらに、ウェブのライティングツール *Cambridge English Write & Improve* は大学のライティングのクラスに役立つかについても調査がされていない。従って、本研究では大学の 1、2 年生の実際の CEFR ライティングレベルと、アンケート調査を基に教室での学習者のライティングを伸ばすウェブサイトがどれだけ役立つかを調査する。

調査の結果、ウェブサイトによって推定された学生の CEFR レベルに関しては、どの学生のグループもシラバスに明記された目標の CEFR レベルに達していなかった。語彙の CEFR レベルに関しては、予測通り、能力が高い学生は様々な種類と、高い CEFR レベルの語彙を使用する傾向があった。ウェブサイトに関しては、PC を使用して英語を書いた練習をしていない学生は、PC を使用して英語を書くのに不慣れであることが判明した。しかし、全体として、語彙と文法に関してヘルプは必要なものの、*Cambridge English Write & Improve* は効果的であると感じていた。タスクの難易度、語数、制限時間に関しては PC を使用して英語を書いた練習をしていない学生は、より難しく、語数は多く、制限時間は短いと感じていた。

(6) Usami, H. (2016). Vocabulary Used in Paired Conversation Across CEFR Levels on the English Vocabulary Profile. *The Report of Foreign Language Center*. 第 36 巻, 39-48.

(要旨)

日本人大学生のペアの会話と使用された語(句)に CEFR レベルをタグ付けした学習者コーパスを構築し、各 CEFR レベルの学習者が使用した語彙の特徴を検証した。結果、約 70% が CEFR の A2 レベルであり、社会問題がトピックの会話では B1 と B1 以上の語彙が多用され、レベルが高い学習者はトピックに関連する難易度が高い語(句)や、形容詞、副詞、意見を表す動詞が使用される傾向にあった。CEFR レベルが高い学習者は接続詞、前置詞、口語表現を、CEFR レベルが低い学習者は fillers や日本語を多用する傾向があった。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

Usami, H. (2019). Japanese English Learners' CEFR Receptive and Productive Vocabulary Knowledge in Their CEFR B1 Speaking Test. *The Bulletin of International Education Center*. 第 39 巻, 23-35. 査読有

Usami, H. (2018). CEFR Receptive Listening, Reading, Vocabulary, and Grammar Knowledge of Japanese Learners of English. *The Report of Foreign Language Center*. 第 38 巻, 35-43. 査読無

Usami, H. (2018). CEFR Receptive and Productive Vocabulary knowledge of Japanese English Learners. *Proceedings of APCLC 2018 Conference*, 480-485. 査読有

Usami, H. (2018). A Validation Study of the CEFR Vocabulary Levels of Japanese English Learners in the English Vocabulary Profile. *The Bulletin of International Education Center*. 第 38 巻, 35-49. 査読有

Usami, H. (2017). CEFR Writing Levels of Japanese Learners of English - Examining the Effects of the Web-based Writing Tool, Cambridge English Write & Improve. *The Report of Foreign Language Center*. 第 37 巻, 13-22. 査読無

Usami, H. (2016). Vocabulary Used in Paired Conversation Across CEFR Levels on the English Vocabulary Profile. *The Report of Foreign Language Center*. 第 36 巻, 39-48. 査読無

〔学会発表〕(計 2 件)

Usami, H. CEFR Receptive and Productive Vocabulary Knowledge of Japanese English Learners. APCLA.2018.9.18. Sunport Takamatsu (高松)

Usami, H. A Validation Study of the CEFR vocabulary levels of Japanese English Learners in the English Vocabulary Profile - using multiple choice questions in Japanese university entrance exams. JLTA.2017.9.10. 会津大学 (福島)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

研究協力者氏名：ポール・レイソン

ローマ字氏名：Paul Rayson

研究協力者氏名：アンドリュー・ハーディー

ローマ字氏名：Andrew Hardie

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。